

中学校 30 人規模学級の拡大について

【総務文教部会】

児童生徒の学力や学習意欲の低下傾向の指摘に伴い、新学習指導要領では授業時数・指導内容が増加し、知識・技能の活用力を高める質の高い学習活動が望まれている。そのためには、教職員が一人ひとりの子どもと向き合い、個に応じたきめ細かな指導が必要である。

小中学校における少人数学級の取組みは、小学校については、平成14年度から、「信州こまやか教育プラン」により、大きな成果をあげてきた。

今年度、中学校1年への30人規模学級の導入による成果を見ると、学力の向上、不登校対策、生徒指導面などに効果が現れている。

平成23年度から中学1年生に拡大している「30人規模学級」を平成24年度2年生になったときに、40人学級に戻すことは、子どもたちにとって大きな負担となり、影響は計り知れない。

一人ひとりにゆきとどいた教育を実現するためにも、中学校の全学年に「30人規模学級」を順次拡大し、あわせて教職員の確保（加配）と不足が予想される教室増設への財政的支援等の充実を図りながら、中学30人規模学級を拡大するよう強く要望する。